若松地区地域計画２０２７

（２０２４年度～２０２７年度）

大黒屋光太夫の偉業を受け継ぎ

明るく連帯感のある、豊かで住みよいまちづくりを進める

若松海岸通り美化ボランティア

大黒屋光太夫太鼓（若松小学校五年生）

2024年４月

若松地域づくり協議会

目　次

地域計画策定の趣旨について
１．計画の構成と期間　・・・・・　４

２．策定体制　・・・・・　４

３．策定の背景　・・・・・　４
１）若松地区はこんな地域　～現状と宝物・課題～　・・・・・　４
⑴若松地区の概要と地域の主な資源、地域の宝物
■地区のなりたち
■地名の由来
■昔の街並みと今
■若松の産業
■大黒屋光太夫の生誕地
■「大黒屋光太夫」ゆかりの地『若松』
⑵人口構成，推計（データから見る若松地区の姿）
■若松地区人口構成
■市全体人口推移
■若松地区人口推移
⑶2020年度～2023 年度の活動結果
⑷子どもの意見

２）地域づくりの基本目標（スローガン）の継承　・・・・・　１１

３）まちづくりの基本方針と取り組み（2024年度～2027年度）　・・・・・　１１
⑴基本方針
■鈴鹿市が目指すまちづくりの分野別ビジョンに沿う
■地域づくりとして主体的に対応できる事項
■地域と行政の協働で取り組む事項
■行政と民間、住民の共創の事項
⑵各部会の目標及び活動方針

４）地域計画２０２７策定に至る経過　・・・・・　１５

５）参考資料（「若松地区地域計画 2027」別冊　参照）　・・・・・　１６
⑴各部会計画策定シート
⑵策定メンバー
⑶組織図

地域計画策定の趣旨について

若松地域づくり協議会

会長　原田　吉次

今回若松地区地域計画２０２７（2024 年度～2027 年度）は、前回の若松地域計画 2020 年度～2023 年度をベースに策定しました。

内容趣旨については、前回地域計画は住民アンケート、子供アンケート、住民代表者によるワークショップで議論した内容をもとに計画策定してきましたが、今回の地域計画にあたり、鈴鹿市が提案した鈴鹿市総合計画２０３１の鈴鹿市が目指すまちづくりの分野別ビジョン１～６と前回地域計画骨子との共通点、４年間活動してきた課題をもとに６部会でそれぞれに討議を行いました。

基本的には前回地域計画の良いところを引き継ぎ、明るく住みよい地域づくりを目指して行動をおこすことを更に方向付け、若松の宝物であり前回地域計画からのあるべき姿である基本目標「大黒屋光太夫の偉業を受け継ぎ、明るく連帯感のある、豊かで住みよいまちづくり」を具現化するため「若松地区地域計画 2027」を策定しました。

今回策定の「若松地区地域計画２０２７」を若松地区の住民で共有化し、住民の総力により具体化に向けた行動をおこしていきたいと考え、明るく連帯感のある、豊かで住みよいまち「若松地区」を創造するために住民主体のまちづくりに取り組みますので、皆さま方のご支援ご協力をお願い申し上げます。

１．計画の構成と期間

本計画は，若松地区の現状と宝物（長所）と課題（短所），地域づくりの基本目標，まちづくりの基本方針と取り組みで構成しています。

計画期間は、若松地区の将来像を実現するため４年間（２０２４年度～２０２７年度）とします。

ただし、事業年度ごとの活動の経過と地域を取り巻く状況の変化等に臨機応変な対応をしていくためにも、必要に応じて見直しを行うものとします。

２．策定体制

本計画は、地域づくり協議会会員と市担当支援職員の協力を得て原案を作成しました。

原案の策定に当たっては、市や町を取りまくマクロの状況や前回の地域計画策定の活動経過、活動結果をもとに部会毎の課題、討議等を反映しながら作成いたしました。

その原案を部会内の役員会、部会で協議を重ね、補強補完して今回提案の地域計画を策定しました。

２０２４年度の協議会総会に策定しました地域計画（案）を報告・共有化し、年度毎の事業計画に落とし込み、具現化に努めていきます。

３．策定の背景

１）若松地区はこんな地域

（１）若松地区の概要と地域の主な資源、地域の宝物

■地区のなりたち

（鈴鹿市全体から見た位置と地勢）

（地区内の地図）

■地名の由来

昔は伊勢湾に接して海岸線は白砂青松が続く風光明媚な地であり、古来の歌（新古今和歌集、万葉集など）に詠まれている「若の松原」が町名の『若松』の由来であると言われています。

現在は千代崎漁港の近くにある山中緑地に青松が一部残っているだけです。

■昔の街並みと今

江戸時代は亀山藩の飛地で、現在の金沢川下流には干潟があり鶴や渡り鳥が飛来する狩場でもありました。　また、若松小学校東側の海岸線には船着き場があり対岸の常滑（大野湊）との間には定期便が通い、伊勢参りや京都詣での旅人が往来して船宿が１０数軒軒を並べ賑っていました。しかし、安政の大地震（１８５３年～１８５４年）で若松海岸線が地盤沈下して湊の機能が失われ、明治 23 年には、三重県令により町の中心部（現在の高町東の地で字「畠中」「北浜」）にあった寺「心海寺」と隣接の民家１０数軒が強制立ち退きとなり、若松小学校前の山町に移住しました。江戸時代の若松の区域は、現在の白子の江島、玉垣の岸岡、そして北若松、中若松、南若松で構成されていました。その後、江島は白子へ分離（明治２２年、１８８９年）。岸岡は玉垣に分離（明治３３年、１８９９年）され、現在の区域となりました。昭和１７年（１９４２年）鈴鹿市制実施、昭和５９年（１９８４年）の住居表示法に沿って町の呼称も変わり現在の若松

中・若松東・若松北・若松西になりました。

■若松の産業

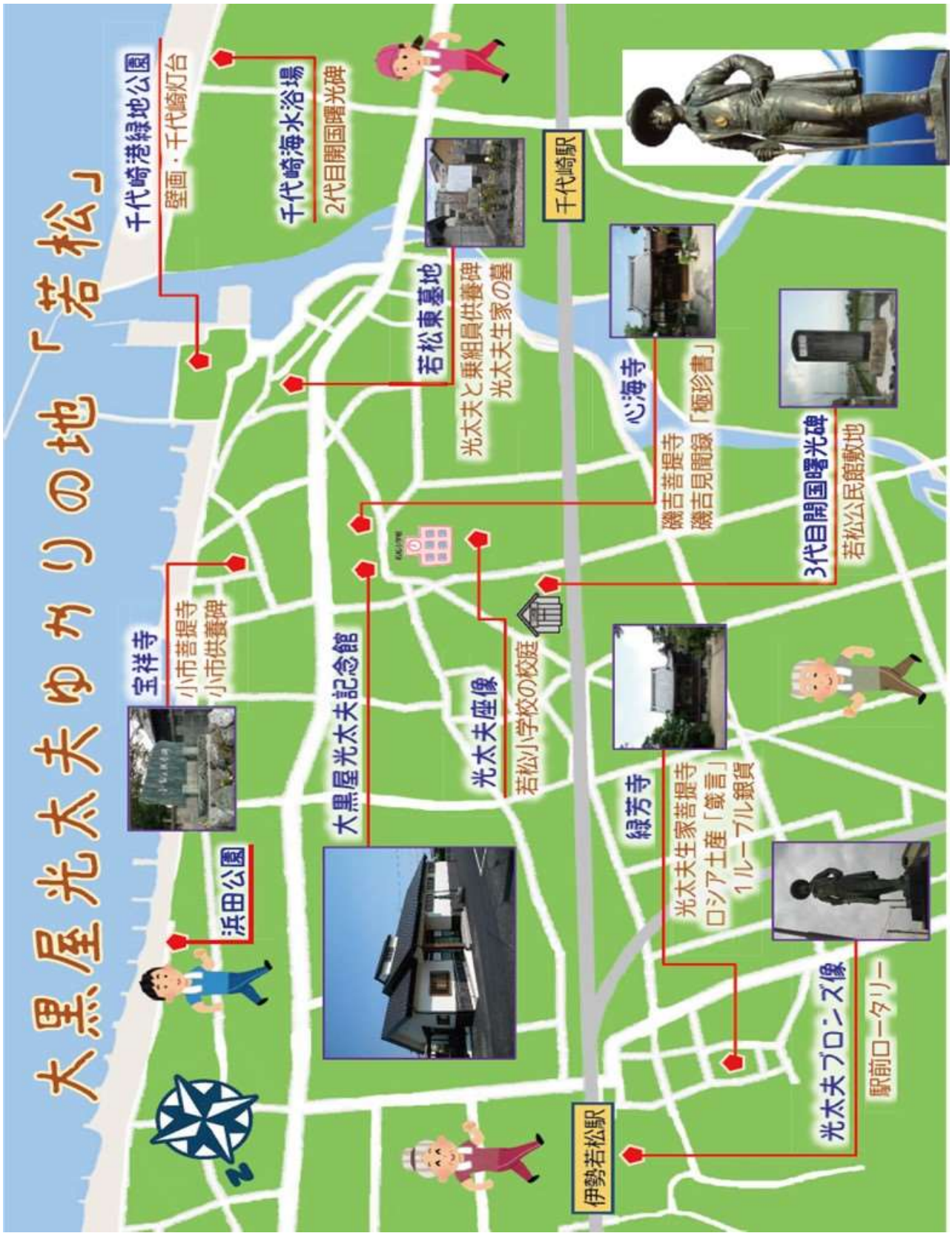
昭和の中期ごろまで、若松はきれいな豊かな水を使用した味噌・醤油・酒醸造が盛んでしたが、大量生産の波に押されて減りはじめ、現在は、酒醸造「清水清三郎商店」一社を残すのみとなりました。また、伊勢湾を漁場に穴子・ワタリガニ・小女子等が獲れる漁業と伊勢平野の一角にある農業の一次産業が中心で栄えてきました。しかし、若者の一次産業離れで、後継者のなり手がいなくなり衰退傾向にあります。

■大黒屋光太夫の生誕地

鎖国の時代にロシアに漂流し、奇跡的に１０年の年月を得て帰国を果した日露国交の先駆者「大黒屋光太夫」が生まれた地です。光太夫生家の亀屋に養子縁組をした大黒屋も船着き場近くにありました。今から 105 年前の大正８年に当時の若松村の有志により光太夫の史実や偉業を後世に伝えようと、若松村の役場横（現在の若松小学校正門前）に顕彰碑「開国曙光」が建てられました。戦時中に顕彰活動が一時途絶えましたが、今から３２年前に「大黒屋光太夫顕彰会」が発足して顕彰活動を継承しています。また、古来から伝わっている伝統文化では、濱田地区の獅子舞、濱田のバッサ踊り、高・山・山中（宝祥寺の海出山地蔵堂）西端（観音堂）の百万遍廻し、幾つかの地区で行われている盆踊りなども守り継がれています。

■「大黒屋光太夫」ゆかりの地『若松』

「大黒屋光太夫」関連史跡や主な公園などのマップ図を掲載しました。



（２）データから見る若松地区の姿（人口構成、推移）

■若松地区人口構成

高齢化社会、住民の減少は否めない。

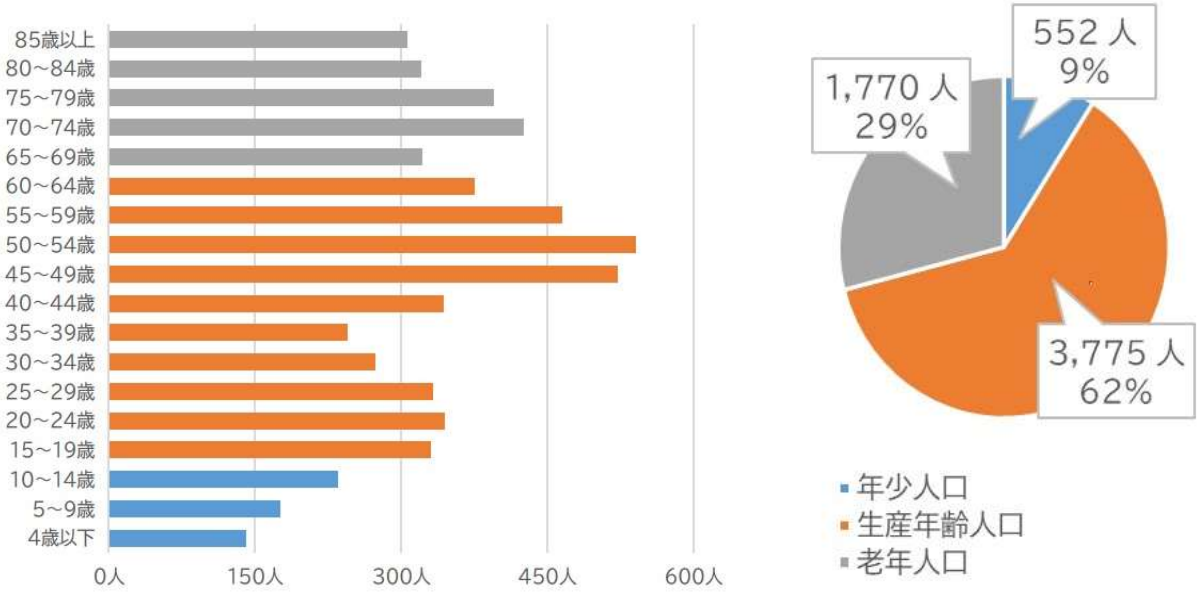
◇若松の住民基本台帳　平成２９年９月⇒令和４年９月比較

・人口；６，５０１人　⇒　６，０９７人

・世帯数；２，７５９世帯　⇒　２，７７０世帯

・年齢比率；６５才以上；２６％　⇒　２９%、１５才未満；１３％　⇒　９%

◇人口構成グラフ



■市全体人口推移

平成 27 年をピークに令和２年は２０万人、令和１７年には１９万人を割り込む。

■若松地区人口推移

鈴鹿市同様に平成 27 年をピークに令和１２年は６千人、令和３２年は５千人を割り込む。

（３）2020 年度～2023 年度の活動結果

新型コロナウィルスの影響により活動中止や縮小が発生したものの、全体的には、若松地区が目指す「明るく連帯感のある豊かなまちづくり」に向け、着実な取り組みが出来たものと考えます。

◇変化する社会環境・地域環境を考慮し、長く住み続けられる安全、安心なまちづくり

広報誌「かけはし」の定期発行（年 12 回）
ネット情報による広報活動（随時発信）
緊急情報発信連絡アプリの活用（未実施）
ふれあいフェスタ若松の開催（充実）
若松海岸通り美化ボランティアの開催（年２回）
ポイ捨て禁止ポスター作製、不安全箇所の摘出と対策
若松地区防災計画の策定（計画中）
防災訓練の検討と実施（避難場所・避難経路作成）
消防分団の安全支援、消防分団車庫壁画の絵の子供たちによる更新

◇家庭、地域、学校、行政が一体となって子供たちの安全、安心に学べる環境づくり
小学校への学習支援(田植え稲刈り、サツマイモ植え付け収穫、夏休みの工作教室)
通学路の安全確保（通学路の除草　年３回、クリーンパトロール　年４回、
ポイ捨て禁止ポスターの募集・掲示　定着）
各種行事への安全支援、青パトによるパトロール、引き渡し訓練時の誘導
朝夕の若小見守りパトロール活動・挨拶運動、クリーンスクールへの参加

◇子供から高齢者まで明るく笑顔で暮らせ、お互いが支え合える地域づくり
地域活動支援ボランティアの展開による３大事業の推進
公民館サークルの支援（サークル数 33）
生活支援、高齢化対策（訪問支援、いきいき教室、移動サロン)、
子育て支援（まつっこ教室、親子の触れ合い場の提供）
町民ハイキング・ジョギング、ニュースポーツ、公民館共催事業
スポーツ教室開催、大木中地区ニュースポーツ交流会、市スポーツ大会参加

◇先代から引き継がれた若松の宝物を継承、生かしたまちづくり
若松の伝統文化の調査・育成、発表会の開催（獅子舞等）
大黒屋光太夫太鼓の実施支援、語り部資料整備、子供語り部の育成、
ボランティアガイド募集、絵画コンクールの実施

◇課題
若松地区全体で取り組む大規模事業（ふれあいフェスタ・海岸美化ボランティア・防災訓練）の充実、強化に向けた体制づくりが必要と考えます。

（４）子どもの意見

2018 年に実施した子どもアンケート若松小学校児童（5、6年生１２０名）からの具体的アンケート内容と主な回答、意見を再確認。

○若松の地域が好きですか？

（Yes）生まれ育った所で、自然と色々な行事があるから。光太夫の歴史があるから。
（Ｎｏ）地震、津波がくるかもしれないから。おばさんがこわいから。
コンビニが無いから。

○将来も若松に住みたいと思いますか？

（Yes）いろんな人に支えられ、将来恩返しをし、いろんな人を助けたいから。
育った所、人が優しいから。親の近くがいい。困ったときに助けてもらえる。
子どもが生まれたら、若松小へ通わせたいから。

（Ｎｏ）地震、津波がこわいから。いなかだから、都会へ出たい。
色んな所を知りたい。仕事のため。

○若松の地域の良いところを教えてください。

①地域の人が見守ってくれている（登下校みまもり隊、青パト）
②地域の行事を楽しめる。

○若松の地域の改善するところを教えてください。

①公園と遊具を増やして欲しい。
②ポイ捨てを無くして欲しい。
③ゴミ、犬のフン等が落ちている。

○若松がどのような地域になってほしいですか？若松をさらに住みやすく良い町にするためには、どんなことをしたらいいですか？

①ゴミの無い、きれいな、明るい町に。
②みんなが笑顔であいさつする、元気で賑やかな町に。
③みんなでゴミをひろう、清掃活動をしては。
④普段からゴミを見つけたらひろう。ゴミを落とさない。
⑤空き家を壊す。不審者が居そうな場所を無くす。
⑥公園と遊具がたくさんある町に。
⑦コンビニやお店のある町にして欲しい。
⑧まつり、イベントを増やして欲しい。気軽に参加出来る行事を増やす。

2）地域づくりの基本目標（スローガン）の継承

大黒屋光太夫の偉業を受け継ぎ

明るく連帯感のある、豊かで住みよいまちづくりを進める

3）まちづくりの基本方針と取り組み（2024年度～2027年度）

（1）基本方針

■鈴鹿市が目指すまちづくりの分野別ビジョンに沿う

〇ビジョン1（V1）　子どもが輝き　人と文化を育むまち
〇ビジョン2（V2）　健やかに　いきいきと暮らせるまち
〇ビジョン3（V3）　生命と財産を守り抜ける　安全・安心のまち
〇ビジョン4（V4）　自然と調和し　快適な都市環境を未来へつなぐまち
〇ビジョン5（V5）　持続可能な産業の発展と　にぎわいや交流が生まれるまち
〇ビジョン6（V6）　みんなで支える　自分らしく生きるまち

■地域づくりとして主体的に対応できる事項

〇子供が楽しめる行事の企画、実施
〇若松の歴史や伝統文化を継承するための体制と人材の育成
〇高齢者が集える行事やサークル活動の企画、実施
〇町内行事（盆踊り・神輿祭りなど）と若松地区全体行事の見直しと統合
〇まちの美化活動（ゴミのない綺麗なまちづくり）
〇若松のまちの紹介、行事の案内などが閲覧できるネット媒体の開設
〇まちづくりに係る役員の育成

■地域と行政の協働で取り組む事項

〇子供が楽しく遊べる場所（公園、風光明媚な景観）の確保
〇空き家の管理と再活用
〇避難場所の周知徹底

■行政と民間、住民の共創の事項

〇津波避難場所の確保
〇生活インフラに関する内容（交通・医療・公園・商業施設）
〇地域が一体となった防災訓練

（２）各部会の目標及び活動方針（⇒取組項目）

◇鈴鹿市の分野別ビジョンをベースに目指すべき若松地区の将来像を構築

○総務部会（V2,V5,V6）

【部会目標】

人を大事にした若松地域づくり協議会の組織体制・各専門部会との連携強化。

【活動方針⇒取組項目】

① 継続的、活性あふれる地域づくり協議会の構築

⇒地域活動支援ボランティアスタッフを活用した幅広い人材の発掘

② 地域計画策定の継続的・的確な立案

⇒継続的な地域計画策定のための現状調査と広報

③ 広報活動，広報誌の充実

⇒各部会の活動の広報継続・年間スケジュール化

地域づくり協議会の知名度アップ

④ 地域づくり行事の見直し

⇒三大事業を含めた地域づくりとしての事業の発展的な見直し

小、中学校との協同事業の仕組みづくり

三世代が楽しめる企画

地域企業の行事参加・賛同・協賛できる仕組みづくり

○文化振興部会（V1,V2,V6）

【部会目標】

歴史・文化・景観を活かして若松愛を育む。

【活動方針⇒取組項目】

① 歴史・伝統文化の担い手確保

⇒若松の歴史・伝統文化の案内資料の整備

出前講座、語り部の取り組み

歴史遺産、伝統文化を掘り起こし

大黒屋光太夫関連の継承・支援

ボランティアスタッフの協力体制をつくる

② 伝統文化（獅子舞・盆踊り等）の継承体制をつくる

⇒伝統文化の実態把握と住民に伝え継承して行く

関係する自治会との連携で情報交換に努める

種々のイベントでの披露（公演）

広報を通じての紹介

③ 公民館サークル活動等の参加者増を図る

⇒公民館運営委員会で拡大策検討

サークル発表会等を活かした働きかけ

広報通じた活動紹介

〇生活環境部会（V4,V5,V6）

【部会目標】

人と人の繋がりを大切にして継続的に生活環境の改善を図り清潔で安全安心なまちをつくる。

【活動方針⇒取組項目】

① ゴミのない清潔なまちづくり

⇒海岸清掃美化ボランティア活動の継続と拡大

定期的に清掃状態のパトロール実施と改善

きれいな田畑の維持

② 安全安心な生活環境づくり

⇒通学路の安全確保

危険箇所の点検パトロール

子供安全 MAP の作成

〇地域安全部会（V2,V3,V6）

【部会目標】

人の繋がりを第一に、気軽に声掛けができる安心・安全な地域社会を目指す。

【活動方針⇒取組項目】

① 一歩踏み込んだ見守りパトロールへの見直し

⇒子供たちへの接し方の見直し

パトロールの時間・ルート・担当の見直し

② 自治会、消防団、行政と一帯となった災害発生時への防災・減災への対応

⇒地区防災計画策定

・若松特有災害の洗出し

・緊急時の情報の共有

・災害発生時の対応方法

・避難場所、避難経路

・避難訓練の実施、他

③ 自主防災隊の組織との連携、各家庭公共施設での食糧・生活用品の充実

⇒家庭での備蓄を呼びかける

自主防災隊組織との協業

④ ハザードマップの情報が少ない

⇒防災マップへの海抜の記載

若松地区に特化したハザードマップの作製

〇健康福祉部会（V2,V5,V6）

【部会目標】

誰もが安心して永く住み続けられるまちづくりを目指す。

【活動方針⇒取組項目】

① 高齢化対策；地域でお互いに支えあって、永くその地域で住み続けることができる仕組みを作る

⇒有償での困りごと支援[おたすけたい]
支えあい活動の検討
② 生活支援事業；高齢者が生き生きと触れ合える場の提供を行う
⇒高齢者と触れ合う場づくり
ふれあいいきいきサロン活動の推進
③ 子育て支援；親子が楽しく触れ合える場の提供を行う
⇒居場所づくり
ふれあい子育てサロン活動の推進
④ 防災対策事業；災害時弱者等、誰もが安全に避難できる体制づくり
⇒災害弱者を伴った避難訓練の実施
大規模災害時の被災者支援

〇スポーツ青少年育成部会（V1,V2,V6）
【部会目標】
地域住民が健康で明るい社会生活を営むため、地域のスポーツ振興に取り組む青少年の健全育成イベントやスポーツを通じて地域の活性化をはかる。
【活動方針⇒取組項目】
① スポーツ推進体制を強化し、地域の継続的なスポーツ振興を実現する。
② 魅力あるスポーツ行事を企画・運営し、地域を活性化させる。
③ 青少年育成行事を通じて、子どもを地域で育てる環境を作る。
⇒体制の強化を図る。
スポーツＥＶの活発化（既存イベントの強化、新規イベントの導入）
広報活動の強化、青少年育成ＥＶの活発化

４）地域計画２０２７策定に至る経過

【2023 年】
８月　総務部会で若松地区地計画２０２７の基本的な考え方をまとめる
９月　各部会に役員会で地域計画策定シート策定依頼
１１月　部会間の事業調整
１２月　総務部会で各部会からの地域計画策定シートを地域計画書に反映

【2024 年】
１月　地域計画（案）を役員会に提案、承認
２月　地域計画（案）を鈴鹿市地域協働課に提出
各部会計画策定シート（案）を内容精査、調整
３月　地域計画（案）を役員会に最終提案、承認・併せて総会にて報告を承認
４月　地域計画書を総会報告
地域計画書を地域住民に回覧、情報の共有化

５）参考資料（「若松地区地域計画 2027」別冊　参照）

（1）各部会計画策定シート

（2）策定メンバー

（3）組織図

事務局
鈴鹿市若松中二丁目３番８号
若松公民館内
若松地域づくり協議会
連絡先　　090-3953-0386

地域活動支援ボランティア
LINE グループ ＱＲコード